

夢サポ通信

こどもの夢サポートセンター

令和2年10月1日発行

「こどもの夢サポートセンター（夢サポ）」の活動も5年目に入りました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、総会も「書面議決総会」にさせていただき、提出者58名全員の賛成を得て成立しましたが、今年度の「会員交流会」も開催が困難な中、日頃の「夢サポ」の活動にさらにご理解とご協力をいただくために、今回「夢サポ通信」という会報を発行することにしました。

「人に優しく、人に寄り添い、人と共に進めていく夢サポ」の各事業の内容と進捗状況、そして、子どもたちの成長報告をどうぞ楽しみに、お読みください。

なお、下の写真の花は「大文字草」です。日陰でも美しく咲く花です。厳しい環境の中でも大きく育って立派な花を咲かせる人間になってほしいという願いをこめた夢サポのシンボルの花です。



学習支援事業

新型コロナの緊急事態宣言で学校が休校していた4月と5月は、夢サポも活動を自粛していましたが、「学習支援事業」は、6月第2週にそれぞれの会場で開講式を行って、「ゆめ塾」が始まりました。

今年の会場の生徒数は現在、「追浜塾7人」「中央塾8人」「大津塾7人」「浦賀塾11人」「長井塾4人」です。

休憩時の軽食は、「横須賀三笠教会様」「横須賀大津教会様」「横須賀商工会議所女性会様」「社会福祉法人清光会様」「メルキュールホテル横須賀様」「上田滋様」に

ご支援いただいています。

軽食支援のおにぎりやパンは、学校から直接ゆめ塾にやって来る生徒たちの、おなかと心を満たします。楽しみな10分の休憩時間になっています。ありがとうございます。

コロナによる授業の空白を取り戻すべく、また、少しでも学力を伸ばすべく、8月、10月、1月、2月は、週2回にして、来年2月入試直前まで約54回の学習の機会を作ります。ほとんどマンツーマン指導ですから、熱心に学習する生徒の姿勢に、講師陣も教え甲斐を感じて頑張っています。

昨年の生徒たちは皆志望校に合格しました。昨年の生徒の感想です。

- * 15年間の人生で、多分一番勉強したと思います。
- * 英語の点数がものすごくあがったのも、多分ここで勉強したからだと思います。良かったです。
- * このゆめ塾で、皆勤賞で褒められて嬉しかった。英数の先生方、愚痴につきあってくれてありがとうございました。
- * 英語や数学は本当に苦手だったけれど、先生方のおかげで、テストの点もあがり、入試本番では、納得のいく点数が取れました。
- * ここまでやることのできたのは、教えてくれた先生方や軽食支援をしてくださった方のおかげです。ありがとうございました。



放課後子ども教室事業

荻野小の放課後の子どもたち（今年は1，2年生の37名）を見ています。

休校中は、教材準備や教室の消毒管理、畑の耕しを行っていましたが、6月より、2教室を使いつつ、再開しました。フェイスシールドでの対応など、衛生管理に追われています。

今までも、安全安心な形で見守るためにと、学童クラブと協力して長坂運動公園まで避難訓練を行ったり、焼き芋大会や海洋環境の講演会を開いたりして、さまざまな知的好奇心をかきたてる体験活動、交流活動を行ってきました。音楽、図工、英会話、運動などのメニューもありますが、子どもを自由に遊ばせる時間を大事にしています。その上、学校の宿題までみてもらえると、保護者のアンケートの結果では100%満足してもらっているようです。熱心なスタッフのおかげです。



就労支援事業

他者とのコミュニケーションがとりにくいなどの理由で家に引きこもりがちな人に、就労体験ができる事業所を、無料で紹介する「ねくすと」の活動を開始して3年になろうとしています。

協力事業者も29社と増え、自分にあったものを見つけるために、体験場所を二箇所を増やしたり、長井の農家と契約して農業体験で身体を動かしたりするなど、社会につなげるさまざまな試みをしてきました。その結果、アルバイトや正社員になって自信をつけ、年間に約8割の方を就労に結びつけることができています。



フリースクール事業

令和2年度1月より、不登校の中学生を対象にしたフリースクールを開校しました。

2月1日付けで神奈川県教育委員会の承認も得られ、県のHPにも掲載されています。

また、横須賀市の不登校保護者の会とも連携して神奈川新聞などからの取材も増えています。

現在週3回程度で生徒を受け入れ、英数の学習以外にジャムづくりや餃子づくり、そして散歩などの活動を通して、人間関係を深めてきました。コロナの影響で出席が難しくもなっていますが、継続している生徒を大事にしていきたいと思っています。

8月に登校が難しい中学生とその保護者を対象にした合同相談会を総合福祉会館で行いました。

10月にも県の不登校説明会が総合福祉会館で予定されています。

アウトリーチ事業

「アウトリーチ」とは英語で「手を伸ばす」という意味で、助けが必要であるにもかかわらず自ら申し出ない人たちに対して、積極的に働きかけ、支援を届けることを指します。

困難な状況にありながら、支援の必要性を自覚せずに、相談意欲もなく、支援拠点に来ないまま取り残されて、ニートや引きこもりになってしまった若者、就職氷河期世代で自信を喪失してしまった若者、そういう若者の増加に対応し、8050問題など複雑な課題を抱える世帯の自立を支援する事業です。

横須賀市生活福祉課や保健所と連携しながら、こどもの夢サポートセンターからアウトリーチ支援員を出して活動を始めました。

◎ 「人に優しく、人に寄り添う夢サポ」のスタッフとして一緒に活動しませんか？
興味のあるかたは、是非夢サポの事務局までご連絡ください。